

未来へつなぐ 子ども記者の声

～戦後80年 子どもたちが見つめた平和～

「戦後・被爆80年」の昨年、日本生協連が企画する「子ども平和新聞プロジェクト」に全国19の生協とともに東都生協も参加。6月から約4カ月にわたり、平和について考え、新聞を作るプロジェクトに小学校4、5年生の5人が挑戦しました。

START

子ども平和新聞
プロジェクト
発表会への道



新聞を作るには
どうしたらいいの？

朝日新聞社の白銀泰さんを講師に、新聞がどのように作られているのかを学び、取材する内容について考えました。
「新聞は手書きにしますが、パソコンで作りますか？」の問い掛けに皆さん即答で「パソコン！」。
さすが！将来が有望な子ども記者の皆さんです。

6月

第1回 ワークショップ ～オリエンテーション

指導して下さった朝日新聞社の白銀 泰さん



初めまして！

緊張の面持ちの
子ども記者の皆さん



東友会の方と一緒に！



10月

GOAL

いよいよ
お披露目！

題字もバッチリ
決まった、かっこ
いい新聞が完成！
一人ひとり前に出
て、このプロジェ
クトに参加した動
機や新聞作りを通
じて感じたことを
発表しました。



白銀さんによる講評

「ピースアクション」で広島に行った時、さまざまな国からこの日のために多くの人が訪問してくれたことにびっくりしました。
この夏に学んだいろいろなことは忘れなれと思います。



こはるさんと桃歌さん

戦争はみんなを悲しませる、マイナスになってもプラスになることは決まらずに思っています。
今、世界で起こっている戦争も早く終わってほしいです。
戦争から得るものは何もありません。

皆さん立派な記者になりました。 朝日新聞社 白銀 泰さん

5人なりに個性のあるとてもいい新聞になりました。「てにをは」を少し修正したぐらいでほとんどがそのままです。中には核心を突いた言葉（表現）にこちらがびっくりすることもありました。そしてみんなが核兵器はなくすべきと言い切る姿に感銘を受けました。もっと学ぼうと広島に足を運んだり、自分自身ができることを見つけようとしていたりしていました。これで終わるのではなくここは通過点。もっと先を知るために一歩前に進んで学び、見聞を広めてもらいたいです。

難しい課題に向かって一生懸命自分で調べ、考え、そしてこの新聞を通して娘の成長をぐんと感じました。大変だったと思うけれどすごくいい経験になったと思います。

以前、家族で広島を巡ったことがあります。その時は家族内で話をただでして。今回、白銀さんにご指導いただいたことと、同年代のお友だちと一緒に学んだことが良かったと感じています。

世界中の平和に貢献できると思い参加しました。今ある戦争が一刻も早く終わるように願いを込めて「核兵器廃絶新聞」という名前を付けました。

お母さんが
助めてくれて参加しました。
今、戦争が起こっている国の人の
気持ちがよく分かりました。
鶴の絵は平和に向かって
飛び立っていくイメージで
描きました。

みんな、
「核兵器廃絶新聞」を
作ったよ！
オー！

子ども
平和
新聞



春さん、泰誠さん、煌貴さん



「核兵器廃絶新聞」はこちらの
二次元コードから閲覧できます

長岡花火大会が、大空襲の犠牲者の
慰霊のためだと知り、もっと戦争のことを
知りたいと思い参加しました。
これからは学校の友達に
戦争のことを知らせたいです。

8月

さあ、
新聞を作ろう！

夏休みの間に、自分で書いた原稿をそれぞれ白銀さんに見てもらい、アドバイスをいただきました。
どんな紙面にしたいか一人ずつ意見を出し合い、新聞のタイトルも話し合っ
て決めました。



熱心に作業中！

7月

第2回 ワークショップ
取材・インタビュー

被爆者の人たちは今、
どんな思いで
いるのかな？

被爆者団体「東友会」事務局長の村田未知子さん、被爆者の家島昌志さんにお話を聞き、80年前の体験をみんな
で取材しました。



真剣にメモを取る姿が



取材前に展示パネルに見入る子ども記者



第21回 東都生協平和のつどい

～世界に届け、平和の祈り～

7月12日に北沢タウンホールにて開催しました。



ステージ

第1部

ピースアクション平和活動に参加した組合員からの報告、「三宅少年のひろしま」の朗読による上映会、東友会※の皆さんへの膝掛けの贈呈式が行われました。



旧とーと会「ピース・Peace・同友会」オリジナル作品
「三宅少年のひろしま」の朗読による上映会
朗読は平田敬子さん



組合員の思いを紡いだ膝掛けの贈呈式
東友会の皆さん

第2部

「核兵器廃絶と平和への道」と題し、東友会代表理事の家島 昌志さんより日本被団協が2024年に受賞したノーベル平和賞受賞式の報告とご自身の被爆体験のお話を伺いました。「核兵器は廃絶するしかない」という言葉からはその強い思いが伝わりました。



東友会代表理事 家島昌志さん

東友会事務局長の村田 未知子さんからは、組合員が膝掛けを贈るきっかけのお話も伺え、1988年から始まった東友会と東都生協のつながり・歴史を聞くことができました。「ピース編みでみんなの平和の思いを集めつなぎ合わせて、平和のために一緒に祈ることができる」という言葉が心に残りました。

また、「被爆者と私たちは同じ言語を話して同じ文化を共有して同じ時代を生きている。そういうものの使命として、皆さんは被爆者や被爆を自分事として心に残して伝えてください。できれば被爆者のお友だちを作り被爆のことを伝えていただけるといいなと思っています」と語られました。



東友会事務局長 村田未知子さん

※一般社団法人 東友会（東京都原爆被害者協議会）
東京在住の被爆者の方が1958年11月16日に結成。1962年4月以来、被爆者の相談事業を東京都知事から委託。60年以上励まし合いながら被爆者と家族のための運動や事業を続けています。

ロビー展示



原爆と人間パネル展示



平和の願いの樹
129枚のメッセージが集まりました

来場者の感想



大学生 のどか 篠田 和さん

パネルディスカッションでご紹介いただいた方たちのほとんどがお亡くなりになっていて、戦争体験を語り継ぐ人がなくなってきています。これからは私たちがその役目を担っていくのだと痛感しました。過去の戦争から学ぶもの、そして平和を切に願う。声を上げることの大切さを知りました。

核兵器 廃絶を願って 次世代への伝承

～親子で平和を考えるとき～

戦後80年の節目に平和について考える企画に、さまざまな世代が参加しました。



ピースアクション in ヒロシマ

平和記念公園碑巡りで原爆ドームの前で



ヒロシマ・ナガサキ原爆パネル展

東京都生協連合会 被爆者の方々と

広島の高校生と交流



ピースアクション in TOKYO

被爆者の方々と一緒にパレード

各地域での平和企画

親子で「これからの未来へ続く平和」を考える企画など、多くの平和募金企画も開催されました。

◆西東京市にもあった戦争・アニメ「原爆の記」上映会◆



全体の様子



アニメ「原爆の記」のワンシーン

戦後70年にまとめた西東京市の戦時中の映像と初代田無市長である指田 吾一氏の被爆体験を綴った「原爆の記」のアニメ化記録の上映。詩人アーサー・ビナード氏の紙芝居「ちっちゃい こえ」上演も行いました。

◆親子でユニセフハウス訪問◆



世界の子どもたちのくらしや、ユニセフの活動をガイドツアーで詳しく学びました。

○東都生協 平和募金とは

くらしを守り、次世代の子どもたちに平和な世界を引き継いでいくために組合員に募金を呼び掛け、平和活動に役立てています。東都生協平和のつどいを始め、地域での平和募金企画は組合員の皆さんから寄せられた募金を活用して開催しています。

2025年は平和募金の取り組みを2回行いました。多くの組合員の皆さんよりご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。

紹介した他にも、たくさんの企画がありました

- ・戦後80年の両国を歩く！ 東京都慰霊堂見学と横網町公園散策
- ・賀川豊彦記念 松沢資料館(世田谷区上北沢)を訪問
～日本の「協同組合の父」賀川豊彦を学ぶ～
- ・平和を考える 浅川地下壕(八王子市)の見学会
- ・戦争体験を未来へ語り継ぐティータイム
- ・戦後80年を東友会の方と一緒に語ろう など



「平和なくして、生協なし」― 戦後・原爆投下80年の2025年、多くの平和行事が開催され、東都生協もさまざまな活動に取り組んできました。世界では今も戦火にさらされている人々がいます。一人ひとりができることについて

今年2026年も組合員の皆さんと、次世代の子どもたちと一緒に、共に手を取り考えていきましょう。
平和な世界の実現のため、東都生協は平和活動を継続し若い世代に広げていきます。